

平成20年 11月 7日

各 位

会 社 名 株式会社ダヴィンチ・ホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 金子 修  
(コード番号 4314)  
問合せ先 取締役チーフ・フィナンシャル・オフィサー  
荒川 貴次  
(TEL. 03 - 6215 - 9865)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年2月14日の決算発表時に公表いたしました平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成20年12月期の連結業績予想数値の修正について

(単位：百万円)

|                           | 売 上 高    | 営業利益    | 経常利益    | 当期純利益   |
|---------------------------|----------|---------|---------|---------|
| 前 回 発 表 予 想 (A)           | 245,694  | 101,916 | 68,035  | 15,680  |
| 今 回 修 正 予 想 (B)           | 59,075   | 5,462   | △16,425 | △2,436  |
| 増 減 額 (B-A)               | △186,619 | △96,454 | △84,460 | △18,116 |
| 増 減 率 (%)                 | △76.0    | △94.6   | —       | —       |
| (ご参考)<br>前期実績 (平成19年12月期) | 276,991  | 107,705 | 83,303  | 11,848  |

## 2. 修正の理由

当社グループは、当社グループが運営し、投資家と共に自己投資しているファンドにおいて約 231,900 百万円の収益不動産売却を当事業年度において計画していましたが、この計画を達成できないことが確実となり、予定していた不動産売却収入が見込めないこととなりました。さらに不動産の新規取得も計画を大幅に下回ることが明らかになり、予定していた賃料収入などが見込めないこととなりました。その結果、売上高は前回予想に対し 186,619 百万円の減収となり 59,075 百万円を見込むこととなりました。

費用のうち売上原価には、売却計画を達成できないことにより不動産売却原価を中心に計画に対し約 88,365 百万円の減少を見込み、更に新規取得の計画下振れにより借入れによる資金調達が不要となり、営業外損益は支払利息を中心に計画に対し約 11,994 百万円の減少を見込みました。また、特別損失は、昨今の大幅な株価の下落により、有価証券の評価損を 8,903 百万円見込んでおります。

以上により、当事業年度の通期売上高、営業利益はそれぞれ、59,075 百万円、5,462 百万円となり経常損益は 16,425 百万円の損失を予定するとともに、ファンドの投資家に帰属する損益は少数株主損益で調整されるため、純損失は 2,436 百万円を予定しております。

なお、最近の日経平均株価の大幅な変動によるファンドの上場株式投資への影響を考慮いたしますと、上記の通期予測は大きく変動する可能性があります。通期予測の数値が変動した場合には、適宜速やかに開示いたします。

(注) 当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

(参考)

1. 平成 20 年 12 月期の連結業績予想数値（持分法）の修正について

(単位：百万円)

|                               | 売上高     | 営業利益    | 経常利益    | 当期純利益   |
|-------------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 前回発表予想 (A)                    | 40,478  | 27,829  | 26,597  | 15,680  |
| 今回修正予想 (B)                    | 8,808   | △833    | △1,633  | △2,436  |
| 増減額 (B - A)                   | △31,670 | △28,662 | △28,230 | △18,116 |
| 増減率 (%)                       | △78.2   | —       | —       | —       |
| (ご参考)<br>前期実績 (平成 19 年 12 月期) | 26,449  | 18,777  | 18,448  | 11,848  |

2. 修正の理由

当社グループは、当社グループが運営し、投資家と共に自己投資しているファンドにおいて約 231,900 百万円の収益不動産売却を当事業年度において計画していましたが、この計画を達成できないことが確実となり、予定していた不動産の売却益を原資としたファンドからの分配利益及びファンドの運用成績に応じてファンドから受け取る成功報酬（インセンティブ・フィー）が見込めなくなりました。

さらに、当事業年度において運営開始を予定していました複数のファンドの運営開始ができなくなったことによりマネジメント・フィーが見込めないこと、子会社で計画していた不動産売却が達成できないことが確実となり、予定していた不動産売却収入の多くが見込めないこととなりました。また、有価証券の売却損及び評価損のうち、当社グループに帰属する部分を上記の売上高に見込んでおります。

以上の減収により、当期の売上高、営業損失、経常損失及び純損失はそれぞれ、8,808 百万円、833 百万円、1,633 百万円、2,436 百万円を見込むこととなりました

なお、最近の日経平均株価の大幅な変動によるファンドの上場株式投資への影響を考慮いたしますと、上記の通期予測は大きく変動する可能性があります。通期予測の数値が変動した場合には、適宜速やかに開示いたします。

(注) 当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上